

大分市立植田小学校 学力向上プラン 1（8月）

学校教育 目標	よく学び すすんで実践する 心豊かな たくましい植田っ子の育成
育成を目指す 資質・能力	【生きて働く知識・技能の習得】【思考力・判断力・表現力等の育成】【学びに向かう力・人間性等の涵養】

	学力状況について 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・5年国語では、「書くこと」の正答率は県より0.4%下回っている。目的・相手意識が低く、根拠や事例を挙げて書くことに課題がある。算数では、全ての領域において、目標値、県平均を上回ったが、複合図形や折れ線グラフの読み取りで課題が見られた。6年国語では、全体の正答率は、県より4.0%上回っている。構成を考えて相手に伝える、伝わるように表現を工夫する問題の正答率がやや低い。算数では、全体の正答率は、県より10%、全国より11.6%上回っている。下位層の児童と上位層の児童にかなりの格差が生じていることが課題である。	学習状況について 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・下位層の児童と上位層の児童の格差 ・構成、段落のまとまり、要旨を捉えられていない。 ・定義や特徴、「なぜそうするのか」等の意味理解 ・学習の生活場面での活用
児童生徒の 課題	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○どの学年も落ち着いた授業態度で学習に取り組むことができている。「見通し」や「対話」によって、自分の考えを書いたり、考えを深めたりできる児童が増えている。 △語彙力や読む力、文章を書く力は個人差が大きい。 △読書や家庭学習の習慣の個人差がある。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・新大分スタンダードに基づいた「めあて・振り返り」や「課題・まとめ」を意識した授業を継続して行っている。 ・授業の導入や教室掲示の工夫、既習事項や生活経験を関係付ける指導を継続して行っている。 ・単元ごとに計画を立て、習熟の時間がとれるよう工夫している。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○授業形態・教材教具の工夫をし、授業力の向上を図る。 ○ペアワークや小グループで、自分の考えを伝え合う場を授業の中に設定する。(発言しやすい雰囲気づくり) ○ICT機器を活用した授業実践を推進する。 ○週2回スキルタイム(5分)を実施する。	



学力に関する達成指標 ・算数の「思考・判断・表現」で70点以上の達成者数を7割以上にする。 ・「授業がよく分かる」「自分の考えを書くことができる」「考えを伝え合うことができる」「家庭学習は 学年×10分+10分取り組むことができる」と答える児童が70%以上



今後の 具体的 な取組	【授業改善】 〈授業改善のテーマ・重点〉 〈授業改善テーマ〉 主体的に学ぶ力を育む授業づくり 〈授業改善の重点〉 基礎学力の向上、自分の考えを表現する活動、対話によって考えを深める授業の推進	【家庭・地域との協働】
	〈取組内容〉 ・新大分スタンダードに基づいた「めあて・振り返り」や「課題・まとめ」を意識した授業を継続する。 ・授業の導入や教室掲示の工夫、既習事項や生活経験を関係付ける指導を継続して行う。 ・単元ごとに計画を立て、習熟の時間がとれるよう工夫する。	〈家庭・地域の取組内容〉 ・家庭学習の充実を図り、学習習慣を確立させる。 ・家庭での一人1台端末の活用を推進する。
	〈取組指標〉 ・練習問題や適応問題を授業の最後に1問以上取組、定着を図る。 ・既習事項の確認や具体物を用いた指導や図を活用した指導を随時行う。 ・授業規律を徹底した授業を毎時間行う。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・学校便り、学年通信を必ず読む。 ・植田中校区「家庭学習のきまり」を必ず読む。
	〈検証指標〉 ・学期末にアンケートを取り、集計・分析を行う。 ・学期末に単元末テストの集計・分析を行う。 ・児童のノートを週に1度はチェックし、「自分の考え」「振り返り」等が書けているか確認する。	〈家庭・地域の検証指標〉 学期末にアンケートを取り、集計・分析を行う。 ・家庭学習に取り組んでいる。(学年×10分+10分)70%以上
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・朝のスキルタイムや授業初めに復習を取り入れたり、個別指導を行ったりして、学力の底上げを図る。 ・図書館を積極的に利用し、読書習慣の確立と、読書活動の質の向上を図る。 ・授業においてICT機器を活用した授業を行う(1日1回以上)。一人1台端末の使い方を検討し、持ち帰りも進めていく。 ・小中9年間を見通した「わさだっ子」の育成を目指し、小中合同の研修と取組を実施する。	